



14/18/21/24/28MHz

# High-Band DXing

JK1KSB 奥村 誠二 Seiji Okumura

High-Band DXing

## ハイバンドの状況とCOVID-19

現在は太陽活動極小期で、サイクル25に入ったかどうか? という段階ですが、ハイバンドのコンディションは不安定ではあるものの上向いており、日によっては夜遅くまで28MHzで中東、ヨーロッパ、アフリカが聞こえるようになってきました。さらに「STAY HOME」による効果か現地局の運用が増えており、今までの取りこぼし分やコンファームできていないエンティティーとのQSOも期待できます。COVID-19の影響は深刻ですが、10月にはCY0C(セープル島)などのDXペディションも予定されています。DXペディションがなく時間の取れる今のうちに、機材のメンテナンスや進歩するデジタルモードへの理解を深めてはいかがでしょう。

## 3V8SS Tunisia

チュニジアのクラブ局3V8SSが、5月30日~6月1日のCQ WW WPX コンテストCWとその前後にオン・エアした。オペレーターはKF5EYY Ashで、まず5月28日21:30JST頃から18MHz FT8がSN-15dB程度で入感。しかしDTが0.3~2.0程度で大きく変化し、ウォーターフォールではよく見えているのにデコードできないこともあった。翌29日は同じく18MHz FT8が22JST前から強く入感し、23JST前後にはSN-5dBとなり多くのJAにコールバックがあった。コンテスト中は31日2:30JST頃に14MHzがRST 569だったのをはじめ、100W運用とは思えないほどよく聞こえていた。コンテスト終了後はFT8の運用に戻り、6月1日22:30JST頃の18MHzはSN-15dB程度で入感。翌2日の18MHzは最初まったく見えなかったが、23JST前にJAにアンテナを向けたのか急に見えだし、1時間以上SN-10dB程度をキープ。今回の運用で18MHzはJAから200 QSO以上できた。強烈だったのは3日の14MHz FT8で、22:40JST頃から見え始め23:30JST頃から1時間以上SN0~-5dB程度が続き、この時点で約70 QSOできた。4日にはリクエストに応じて19JST頃21MHzに出てくれたがコンディションが悪く、西日本を中心に数局のQSOに留まったのは残念だった。Ashはとても好意的にJA



3V8SSのシャック  
チュニジアは出力100Wがリミット。FT8は常時40W運用で、必要に応じて80Wまで増やすこともあるそうだ



3V8SSを運用する  
KF5EYY Ash

をピックアップしてくれるので、今回多くのJAがQSOできたものと思う。  
チュニジアのCOVID-19の状況はそれほど悪くないようで、20日間で新たに感染者が見つかったのは帰国者のみとのことだ。そのため多くの制限が解かれ、Ashは自宅のあるスファックスから約130km離れた3V8SSがあるスースまで行くことができ、今回の運用につながった。  
次の3V8SSの運用は7月11日~12日に行われるIARU HF World Championshipの予定で、その前後に



3V8SSの14/21/28MHz用  
八木・宇田アンテナ(ロシア製CT-37HF)  
18/24MHzはチューナを使ってオン・エアしている

も今回同様オン・エアするそうなので楽しみにしよう。Ashはスファックスにあるクラブ局3V8SFからもオン・エアしている。

## 4U1UN United Nations HQ

ロックダウン中の国連ビルにある4U1UNが、4月上旬にリモート運用を特別に認められ、7JSTすぎや21JST頃からはよく14MHz FT8でオン・エアしている。どちらかという夜の方が強い印象だ。周波数はほとんどが14,085kHzで、F/Hモードよりノーマルモードの方が圧倒的に多い。「14,074kHzじゃないのでF/Hモード」と早合点せず、よく状況を観察しよう。

15/45秒で送信していたら即ノーマルモードと判断。00/30秒の送信でも、Tx2(レポート付き)で呼んだ局やTx周波数1,000Hz未満で呼んだ局にコールバックしているのならノーマルモードと判断してよい。ほとんどがKO8SCA Adrianによる運用で、夜はJAが見えなくなるまで続けてくれている。

リモート運用の4U1UNは、バーチカル・アンテナ+最大出力100Wなので、同程度の設備でも見ればQSOのチャンスは十分ある。急なノイズやシステムのハングアップにより急にQRTすることもあるが、解消すると再開することが多いので諦めずワッチを続けるとよい。  
※追加情報:最近になってCWの運用もあり、6月6日20JST前から14MHzで確認した。今後はFT8とCWで運用を続けるとのことだ。

## 8Q7PR Maldives

8Q7PRが19~22JST頃に14~21MHzのFT8でよく入感している。SN-15~-10dB程度で特に強いわけではないが十分QSO可能だ。オペレーターはParkerで、2018年11月にアマチュア無線のライセンスを得て運用を開始した。しかし彼の無線歴は長く、1966年にプロ



シャックの8Q7PR Parker

のオペレーター・ライセンスを得てから政府の通信部門に入り、フルレ空港(現在のヴェラナ国際空港)の管制部門でも働いていた。その後通信士として約15年間貨物船やコンテナ船に乗り組んで世界中を航海し、日本を含め世界各地を訪れている。その後、船を降り

て民間企業に勤めていたそうだ。現在は2017年に友人の8Q7AM Aliが作ったMaldives Amateur Radio Society(MARS:8Q7RS)のメンバーとして、モルディブのアマチュア無線普及に力を注いでいる。特に世界スカウト機構(WOSM)が主催するJOTA(Jamboree On The Air)、JOTI(Jamboree On The Internet)\*1の活動に深く関わり、モルディブの子供たちに世界中とつながることを教えている。また彼の娘と息子は青年海外協力隊(JOCV)から日本語を学び、日本に来たこともあるそうだ。

モルディブのテンポラリー・ライセンス(3カ月有効)を得たいときは、MARSのWebサイト\*2を見てE-Mailをすれば支援してくれるそうなので、リポートに行く予定のある方はトライしてみてもいいだろう。

現在のモルディブは4月15日から首都マーレがロックダウン状態で、ステイ・ホームを強いられている。5月初旬には約200名の陽性が確認されていたが回復者が多く、深刻な症状の患者はいないそうだ。だが毎日感染者が少数見つかっており、これ以上広がらないようベストを尽くしているとのことだ。

## OX3LX Greenland (IOTA NA-134)

OX3LXが、5月中旬から下旬にかけて入感した。オペレーターはOZ1DJJ Boで、1986年からTELE Greenlandという会社でエンジニアとして働いており、グリーンランドに住む人々の通信確保のため各地を回っている。今回の運用は、グリーンランド西岸にあるAsiaat島(NA-



2019年のJOTA、JOTIで子供たちにアマチュア無線を説明するParker



地上高約30mに立つ8Q7PRのアンテナ  
7/14MHz用ダイポール・アンテナ、21MHz用バーチカル・アンテナなどを使用。SDR用小型ループ・アンテナが左下に見える

\*1 JOTA、JOTI:アマチュア無線やインターネットで世界のスカウト仲間と交信や情報の交換をしてお互いを理解し、知識と友情を深めることを目的とする公式国際行事  
\*2 <http://www.marsmv.org>

2015年2月にKookoerne島  
(NA-220)からOX3LXを運用  
した際のOZ1DJJ Bo



今回のOX3LXのシャック  
IC-7300とIC-7610を使用



134)から仕事の空き時間を利用して行われ、現地の朝や昼食前後、または夕食後に多かった(時差はJST-11時間)。OX3LXのコールサインでは、これまでNA-018、NA-151、NA-220、NA-243などからも運用されており、その都度運用地が違うのでIOTAチェッカーの方は要注意だ。

5月17日18:40JST頃14MHz FT8がSN-8~-12dBで入感し、19JST前にFT4にQSYしてSN-10~-13dBでデコードできた。また、27日18:10JSTすぎにも14MHz FT8でSN-10dB前後で入感したが、何局かとQSOしたあとCQ連発となり、しばらくして消えてしまった。

彼は14歳の時にデンマークでライセンスを取得して以来、50MHz以上の周波数のバンドが好みだそうで、EMEなども楽しんでいるがHFでもローバンドを含めアクティブだ。今はコペンハーゲンに住んでいるが、前記の仕事の関係で頻りにグリーンランドに行っており、今回は5月7日から21日まで滞在の予定だったが、

COVID-19のため6月1日頃まで延びたそうだ。グリーンランドでは11人が陽性となったが全員回復し、レポートをもらった時点では感染者はいないとのことだ。今後もこの状態が続くことを願う。

OX3LXが使用したアンテナ群  
11m長の釣り竿を使った7~28MHz用パチカル・アンテナと50/70MHz用デュアルバンドの八木宇田アンテナを使用。後ろに見えるパラボラ・アンテナはNEC製の、インターネット回線と通信回線の補助用

## SU1SK Egypt

SU1SK Saidが最近アクティブだ。彼は首都カイロ在住で、1990年にライセンスを得て以来SSB、各種デジタルモード、CWでよくオン・エアしている。さらに2010年にエジプト・アマチュア無線連盟(ERASD)を設立し、現在会長を務めている。TS-180とTS-570Sによる100W運用で、ハイバンドのアンテナは14/21/28MHzの3エレメント八木宇田アンテナと18m高のクッシュクラフト社製R7パチカル・アンテナを使っている。

いままで何度も本稿で指摘してきたが、FT8で無線局運用規則の周波数使用区別違反がSU1SKの運用中に少なくとも2度あり、注意喚起のためあらためて紹介させていただく。

- 5月11日7JST前から14MHz FT8がSN-3~-10dBで強く入感したが、7:10JSTすぎに14,069kHzにQSYしてF/Hモードを始めた。JA側の狭帯域デジタルは14,070kHz以上と決められているにもかかわらず、コールバックされたJAのほとんどがSU1SKの周波数(14,069kHz+Tx:460Hz付近)にQSYし、周波数使用区別を逸脱していた。



SU1SKのR7パチカル・アンテナ他に14/21/28MHz用八木宇田アンテナも使っている

- 5月30日22:20JST頃から24,905kHzでFT8 F/HモードがSN-15dB程度で入感。DXクラスターでスポットされたこともあり多くのJAが呼び始めた。しかしJAが許されている狭帯域データは24,910kHz以上なので、この時呼んだJAは全員周波数使用区別を逸脱した。

以上の2件で周波数使用区別を逸脱した中にはアクティブなベテランDXerも多く含まれており、猛省していただきたい。この時の状況などは皆さんの「202005\_ALL.TXT」ファイルに記録されているはずなので、気になる方は確認してみてください

エジプト・アマチュア無線連盟(ERASD)会長のSU1SK Said



Saidも8Q7PR同様にJOTA、JOTIの活動をしており、子供たちにアマチュア無線のデモをしている

だければと思う。

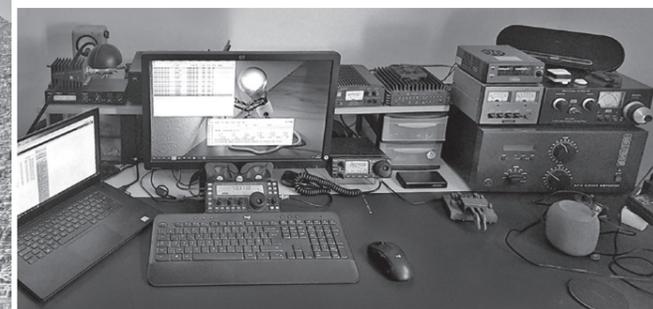
Saidには今回の件とJAの運用規則について詳しく説明したところよく理解してくれ、E-Mailで送ったJAバンドプランのPDFをERASDのメンバーに配布し周知すると約束してくれた。それにしても、今回の責任はSaid側にはまったくなく、なんだか申し訳ない気分である。これ以外では、14MHz FT8が5月27日8JST前から入感し、この時はノーマルモードでSN-10dB程度だった。18MHz FT8も5月12日23:30JST前後にSN-6dB程度でよく入感していた。週末になると彼のシャックがSU0ERA(ERASDのクラブ局)として使われることもあるそうだ。

QSLカードの請求はダイレクトのみで、SASEを書留で送る方が安全とのことだ。また返信料をPayPalで送り、データはE-Mailで伝えるという方法でもOKで、詳しいことはQRZ.COMをご覧ください。ただし、現在エジプトの郵便サービスはCOVID-19の影響でストップしており、QSLカードの処理はその状況が解消してからになる。

## TT8SN Chad

本誌2020年3月号のLow-Band DXingで紹介されたTT8SNが、3月末頃からハイバンドでもよく入感するようになった。オペレーターのNicolasによると、先日まで1.8~10MHzでQRVしていたが、いまは14~50MHzでQRVしているとのことだ。

14MHzではCWとFT8で早朝から7JSTすぎ頃まで



TT8SNのシャック  
KX3とRM MLA100V(100Wリニア・アンプ)、  
ACOM 1000リニア・アンプ

July 2020

※3 TT8SNの追加情報

Nicolasから「フランスへの帰国が7月に延期となり、それまで50MHzだけで運用する。チャドに戻るのは8月20日頃の予定」と連絡があった。50MHz狙いの方には大チャンスだ。

チャンスがあり、21MHzは18JSTすぎから夜にかけて、また28MHzも22JST前後に入感していた。5月25日22JSTすぎの28MHz FT8はSN-10~-15dBでよく見え、20局以上のJAがコール。しかしまだよく見えている最中の22:34JSTに「NA TEST 6M QSY」と打って50MHzでNAを狙いにいってしまった。しばらくして戻ってきたようだが、こちらではもうデコードできなかった。FT8ではたまにF/Hモードも使い、周波数は14,085kHzや21,085kHzが多いので気に留めておこう。また50MHzでもFT8で何度か入感し、すでに60局以上のJAとQSOできているようだ。5月22日16JST前には東京でもデコードできた。

現在は多くの局がチャドとFT8でQSOを求めめるため対応しているそうだが、実は彼はCW好きで、10分ほどFT8をやっていると他のことをしたくなるとのこと。彼のQTHは首都ンジャメナで、2019年10月4日から運用を始め、3~4年間現地にいる予定だ。しかし、COVID-19の状況にもよるが、6月初旬から所用でフランスに帰国するためQRTし、8月にチャドに戻る予定とのこと。戻った後には1.8MHzと28MHzのアンテナを整備し、FT8で2バンド同時にオン・エアできるようにすることを考えているそうだ(欄外に追加情報)※3。 @Q



TT8SNの14~28MHz用スパイダー・ビームと50MHz用7エレメント八木宇田アンテナ



TT8SN(左)とFG/F6ITD Jean-Pierre  
グアドループ(FG)で旧知のF6ITD Jean-Pierreと再会  
(今年3月、FG/F6ITDのシャックにて)